

十勝高等教育まちづくり会議

平成26年度の取り組み状況等について

(平成26年4月～平成27年1月)

1 十勝高等教育まちづくり会議の会議開催経過等について

■ 会議開催

- ◇ 平成26年 5月20日 ・第1回理事会開催
 - ①平成26年度総会議案について
[平成25年度事業・決算・監査報告、平成26年度事業計画・予算(案)、役員を選任]
- ◇ 平成26年 5月29日 ・第1回総会開催
 - ①平成26年度総会議案について
- ◇ 平成26年 9月17日 ・第1回企画・事業部会開催
 - 部会長・副部会長の選任について、次年度に向けた取り組みの整理について、次年度の新たな体制について、アンケート調査の実施について、今後の日程について
- ◇ 平成26年11月10日 ・地域発展に必要な高等教育機関の整備・充実、人材育成に係る意見交換会開催
 - ◆ テーマ：地域発展に必要な高等教育機関の整備・充実、人材育成について
 - ◆ 論 点：以下のとおり設定し、意見交換を実施
 - ① 20年後を見据えた地域における取り組みの方向性
 - ② 地域を支える人づくりの方向性
 - ③ 人づくりのために必要なこと～教育システム、体制・環境 など
 - ◆ 参加者：帯広商工会議所青年部、帯広青年会議所、とかち財団、農業者、帯広市 33名参加
- ◇ 平成26年11月17日 ・第2回企画・事業部会開催
 - 平成26年度の取組状況について、アンケートの実施結果について、今後の取り組みの方向性について、組織のあり方について、新組織の設置・引継ぎ等について今後の進め方・スケジュール(想定)について、先進地視察について

◇ 平成27年 1月16日 ・第2回理事会開催

①平成26年度臨時総会議案について

[平成26年度の取組状況について、企画・事業部会の取りまとめ結果について、
(1 アンケートの実施結果と今後の取り組みの方向性について 2 組織のあり方について)
新組織の設置・引継ぎ等について、今後のスケジュール等について]

■ アンケート実施

◇ 平成26年9月～11月 ・全会員を対象に、次年度の推進体制及び取り組みの方向性に係るアンケートを実施

○ 発送45件 回答33件（回答率73.3%）

～設問1 今後の取り組みの考え方・進め方について

～設問2 今後の組織体制について

（組織目的、組織の役割、組織の名称、組織体制、メンバー構成）

※ 同アンケートを帯広畜産大学整備拡充促進期成会の会員に対しても実施

■ 視察等

◇ 平成26年11月13日～11月14日 ～ 文部科学省、早稲田大学、NPO 法人 ETIC ほか

◇ 平成27年2月 9日～10日（予定） ～ 地域課題の解決に向けた高等教育機関等との連携に係わる先進地視察

○ 徳島大学、高知大学 ほか

◇ 平成27年2月17日～18日（予定） ～ 地方創生に向けた十勝の人づくりの方向性、高等教育機関等について
グローバル農業人育成のための新たな教育システム構築に向けた米国
大学・機関・研究者等との連携の可能性について

○ 米国大使館農務部 ほか

※ 帯広市や帯広畜産大学整備拡充促進期成会の予算事業を含む

2 地域の発展に必要な高等教育機関に関する調査・研究、事業等について

(1) 帯広畜産大学との協議について

① 協議の場について

協議の場は、平成 17 年に締結した包括的連携協力協定に基づく連携協議会を活用し、同協議会の下に、全体企画調整を行う検討会議『地域発展に必要な高等教育の整備充実に係わる検討会議』を設置し、さらにその下に、テーマ毎に専門部会を設置し、具体的な協議、取り組みを進めている。

② 主な協議・打合せ等

- ・ おびひろ動物園との新たな連携
 - ◇ 平成26年度～ 新入生の学習目的に対する入園無料化を実施
- ・ フードバレーとかち人材育成事業
- ・ ヒトと馬の絆による教育・研究・社会貢献事業
 - ◇ 平成26年 8月 9日 ちくだい馬フォーラム2014の共催
- 平成27年3月下旬（予定） 帯広市と帯広畜産大学との連携協議会

(2) フードバレーとかち人材育成事業

○事業内容

- ◇ 「十勝アグリバイオ産業創出のための人材育成事業」（文部科学省補助事業、H19～23）で培ったノウハウを活かし、チャレンジ精神等を持って企業経営、異業種参入、起業化などの企業の発展、ひいては地域の経済発展に寄与するようなリーダーシップを発揮する人材を育成する（帯広畜産大学との共同事業）。

■平成26年度カリキュラム

- ①アグリ・フードビジネスコース（入門編：5月27日～6月10日、応用編：7月14日～8月2日）

【ねらい】食・農分野で新事業を開始するために必要な基礎的・応用的知識の習得

【内容】アグリ・フードビジネス講習（入門編、応用編）

【実績】入門編：参加9名、修了9名 / 応用編：参加11名、修了10名

②食品安全管理コース（食品衛生講習 入門編：8月21日～9月11日、応用編：10月3日～10月21日）
（食品有害微生物講習 中級：9月17日～19日）

【ねらい】食品衛生管理に関する知識及び実技の段階的な習得

【内容】食品衛生講習（入門編、応用編） 食品有害微生物講習（中級）※上級は2月実施予定

【実績】食品衛生講習 ～ 入門編：参加6名、修了6名 / 応用編：参加6名、修了6名

食品有害微生物講習 ～ 中級：参加3名、修了3名

③環境配慮型農畜産業コース（11月20日～12月18日）

【ねらい】環境に配慮した農畜産業に関する知識の習得

【内容】畜産廃棄物利活用、有用微生物の農業への活用等

【実績】参加36名

④特別講習（一般公開）

- ・ 8月7日（木） 講師：有限会社十勝しんむら牧場代表取締役 新村 浩隆 氏
（61名受講） テーマ：「次世代に繋ぐ農業のブランディング戦略」
- ・ 1月6日（火） 講師：日本ハム株式会社顧問 帯広畜産大学客員教授 山田 輝男 氏
（23名受講） テーマ：「食品企業における一般衛生管理について」

- ◇ このほか、修了生を対象に、新商品開発等の具体化を支援するため、事業化等に関する専門性を有するメンターによる事業案の作成支援や、各産業支援機関への橋渡し等のフォローアップを実施。
- ◇ また、道内4大学（北見工大、東京農大、北大、畜大）で実施している食品関連の社会人を対象とした人材育成事業の参加者等を対象に共同セミナーを実施（1月14・15日・23日・24日）し、情報交換を通して人的ネットワークを形成。

(3) 馬のいるまちづくり共同事業

○事業内容

- ◇ 帯広畜産大学の知見を活かしながら、馬を活用した様々な活動を通じて教育・研究・社会貢献を充実させることで、地域に寄与するとともに、人材の育成に努め、ひいては馬の研究拠点として地域の発展につなげることを目指す取り組み。
(平成26年度より帯広畜産大学との連携事業として事業実施)

■平成26年度の主な事業

- ・ 障害者乗馬：知的障害児を中心に、馬のふれあいや、乗馬教室を実施（平成26年度 延べ38人参加）
- ・ 適応指導教室の乗馬体験：不登校児らを対象とした教室のカリキュラム内で乗馬体験を実施（平成26年度 延べ20人参加）
- ・ その他、イベントの共催（ちくだい馬フォーラム2014：530人来場）により、市民への取り組みの周知に取り組んでいる

「ヒトと動物（ウマ）の絆による教育・研究・社会貢献」取組概要



(4) 帯広畜産大学と北海道大学との共同教育課程の実施

- 国際通用性の高い獣医学教育の充実を目指し、それぞれの大学が持つ優位な教育資源を活用し、魅力ある教育研究及び人材育成に取り組むもの。平成 23 年 10 月に両大学が協定書に調印し、平成 24 年 4 月から共同獣医学課程を設置。

(5) その他

① 国立大学改革プランに係る畜大学長コメント ～ 平成25年11月26日プラン公表を受けて

帯広畜産大学は、我が国唯一の国立農学系単科大学として、獣医学分野と農畜産学分野を融合した大学院教育、国際水準の獣医学教育等、農学分野の教育改革に取り組んできました。今後とも大学の機能強化、国際化を一層進め、「食を支え、暮らしを守る」グローバル人材の育成により、地域及び国際社会に貢献します。

② 帯広畜産大学の主な動き（平成 25 年以降）

- ◆平成 25 年 1 月 24 日 帯広信用金庫・とちかち財団と共同研究契約を締結
- ◆平成 25 年 2 月 HACCP 準拠の食品加工実習施設完成
- ◆平成 25 年 2 月 22 日 「欧米水準の獣医学教育実施体制構築」国の事業採択
- ◆平成 25 年 4 月 1 日 「獣医学教育国際認証推進室」設置
- ◆平成 25 年 4 月 19 日 寄附講座「バレイショ遺伝資源開発学講座」開設
- ◆平成 25 年 9 月 26 日 地方独立行政法人北海道立総合研究機構との連携・協力に関する協定締結
- ◆平成 25 年 10 月 22 日 ジャガイモの研究を目的とする温室等贈呈
- ◆平成 25 年 12 月 2 日 米国コーネル大学と学術交流協定を締結
- ◆平成 26 年 2 月 28 日 道内国立6大学との教養教育単位互換及び入学前留学生教育の実施に関する協定を締結
- ◆平成 26 年 11 月 12 日 米国ウィスコンシン州立大学マディソン校と学術交流協定を締結

3 早稲田大学インターンシップ受入事業

(1) 事業目的

早稲田大学の学生をインターンシップの学生として受入することにより、帯広・十勝への理解を深めることを目的とする。

(2) 平成26年度受入登録機関

- ① JICA北海道（帯広） ② 帯広市（農政課ほか）

(3) 平成26年度受入実績 2名

- ① JICA北海道（帯広） 商学部3年 8月25日～9月5日
② 帯広市農政課（農業技術センター） 人間科学部3年 9月1日～9月12日

(4) 過去の受入実績（平成21年度～）

- ① 平成21年度受入実績 3名
◇ JICA帯広国際センター（2名）
・法学部3年 8月2日～8月17日
・政経学部3年 8月6日～8月19日
◇ 帯広市役所農政課 農業技術センター（1名）
・政経学部3年 9月3日～9月24日
- ② 平成22年度受入実績 1名
◇ JICA帯広国際センター（1名）
・文学部3年 8月6日～8月19日
- ③ 平成23年度受入実績 1名
◇ JICA帯広国際センター（1名）
・創造理工学部3年 8月8日～8月19日（市と共同受入）
- ④ 平成24年度受入実績 3名
◇ JICA北海道（帯広）
・文化構想学部3年 8月6日～8月17日
◇ とかち財団
・法学部3年 8月27日～9月7日
◇ 帯広市農政課（農業技術センター）
・法学部3年 9月10日～9月23日
- ⑤ 平成25年度受入実績 2名
◇ JICA北海道（帯広）
・国際供用学部3年 8月5日～8月16日
◇ 帯広市農政課（農業技術センター）
・政治経済学部3年 9月2日～9月13日

4 筑波大学大学院留学生受入事業

(1) 事業目的

筑波大学大学院留学生の移動講座を帯広市で実施し、市民との交流を通して帯広・十勝への理解を深めることを目的とする。

筑波大学と帯広市とは、平成19年度より留学生受入事業を実施。国の「留学生30万人計画」に基づく、国際化拠点整備事業（グローバル30）の採択拠点として、平成21年7月に筑波大学など13大学（国立7校、私立6校）が決定されたことから、筑波大学からは、継続的な受入要請がある。

(2) 事業名

筑波大学大学院帯広オータムスクール

◇ 講座名：筑波大学大学院 人文社会科学研究科 国際地域研究専攻 JICE-JDS「国際関係論特別講座」

(3) 平成26年度受入実績

- ① 期 間 平成26年11月24日～28日
- ② 人 数 13名（教員等4名、留学生9名[中国・タンザニア・ウクライナ・カザフスタン]）
- ③ 地元聴講生 5名
- ④ 実施内容
 - ◇ 講 義（留学生移動特別講座） 11月24・26・27日
 - ◇ 現 地 視 察（農業関連施設・公共施設等の視察） 11月25・27・28日
 - ◇ 市民公開講座 11月24日(月)18:30～20:00 講師：塩谷哲史氏（筑波大学人文社会系助教）
演題：「シルクロードの近代－開発と環境問題－」39名参加

(4) 過去の受入実績（平成19年度～）：6か年で合計116名

- ◇ 平成19年度 32人（教員4人・留学生28人）
- ◇ 平成20年度 18人（教員3人・留学生15人）
- ◇ 平成21年度 14人（教員4人・留学生10人）
- ◇ 平成22年度 15人（教員2人・留学生13人）
- ◇ 平成23年度 26人（教員等3人・留学生23人）
- ◇ 平成24年度 11人（教員3人・留学生8人）

5 星槎大学帯広サテライト(学校法人 国際学園)の展開

(1) 開校日 平成21年10月1日

(2) 設置場所 帯広経済センタービル3階(西3南9)

(3) 事業概要

- ◇ 教育支援やフリースクール事業(高校の中途退学者、小中学校の不登校児童生徒、特別支援教育の必要な児童等)
- ◇ 生涯学習事業(市民対象)や国際交流・国際理解に係る講座の開設
- ◇ 教員免許更新講習の実施

(4) 地域貢献事業等

- ◇ 東日本大震災復興支援事業「北の大地に会いに行こう」2014夏
～福島県相馬市の小中学生39名の受入(平成26年8月4日～8月9日:6日間)
- ◇ 第3回学校祭～まちなかにぎわい祭り～in 帯広星槎祭の開催(平成26年9月13日)～中心市街地のにぎわい創出に貢献
- ◇ おびひろ文化体験事業の実施(帯広市・帯広市教育委員会共催、毎年春明け1回)